

第五十六話 令和元年 五月八日

【天正】

武士モノを著わす拙者にとって一番に気になる元号がある。

それは【天正】

天正元年、織田信長、足利義昭を追放。室町幕府滅亡。

【天正】の元号は信長が朝廷を動かし自らが付ける。

「天下布武」のつづきで<天を正す>との意味合いからか。

これも禅僧の進言だろう。

信長が天下人として台頭した「長篠の戦い」が天正3年。

その信長が斃れた「本能寺の変」が天正10年。

天正15年、秀吉の「バテレン追放令」

翌16年。「刀狩令」

秀吉が磐石な天下人となった「小田原征伐」が天正18年。

同年、秀吉に敬遠された家康、尾張から江戸入り。

天正19年、「身分統制令」

【天正】19年間は幕を閉じる。

エポックをざっと整理する。

「長篠の戦い」＝火縄銃戦

「本能寺の変」＝下克上

「小田原征伐」＝天下統一

「バテレン追放令」＝鎖国

「刀狩令」＝身分制度（士農工商）

【天正】とは、家康の幕藩体制の下地の時代、区分であった。

坂東武者が頼朝を担いだ武家政権誕生からいくつかのエポックはあったが、【天正】のエポックは、いまある吾ら武士像の基盤となっている。

【天正】を想いだしたら別の元号が気になった。１９年間に等しい１５年間。

【天正】と一文字違いの【大正】

いまある吾らに記憶の薄い１５年間だが、いまある吾らに重大な出来事があった元号である。

大正元年。乃木希典、明治天皇崩御で殉死。奥方も殉じる。

日清・日露を勝った全国民にとって、予期せぬ心の大地震であった。

明治の世の終わりを明確に象徴させた事件。そして、すぐに起こった世界の動乱。日本も巻き込まれる時代になっていた。

大正３年、第一次世界大戦開戦。

大正６年、ロシア革命。マルクス主義が世界へ伝播。

大正７年、コメ価格の暴騰による全国的な米騒動。

世界大戦の戦勝連合軍がソ連けん制。戦勝連合軍末端の日本、シベリア出兵

大正９年、国際連盟発足。第一回メーデー。

大正１０年 中華民国で中国共産党が結成される

大正１１年 全国水平社結成。ソビエト社会主義共和国連邦が誕生。

大正１２年、関東大震災。

大正１４年、NHKラジオ放送開始。治安維持法が制定。２５歳以上の男子に選挙権の普通選挙法が制定

ざっと記して吐息をつく。【昭和】の下地がここにあった。

西暦は便利である。歴史を一冊の本に例えればノンブルである。何年前か何年後かが一目瞭然。便利である。歴史は一直線に繋がっている。わかりやすい。

【天正】 【大正】 を省みて元号のありがたみがわかった。

歴史はたしかに一直線に繋がっている、ように見える。が、紆余曲折を経ていることに気づく。歴史は因縁の積み重ねであることがよくわかる。

ますます便利な世になっていく。便利さでないものも残しておこう。